

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100029		
法人名	医療法人 馨仁会		
事業所名	グループホーム花トピア姫		
所在地	岐阜県多治見市大針町672-2		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2191100029-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者の思いを汲み取り、支障のない範囲で個人のペースを保ちながら生活している。</p> <p>②家族との関係を断ち切らないように、文書・お便りお発送し面会を兼ねて日用品・寝具・衣料等の入れ替えを行ってもらっている。家族と電話や対面で交流する機会を持つことを心がけている。</p> <p>③地域(特に地域包括)と定期的に情報交換することで、地域のニーズに応えられるよう努めている。</p> <p>④本人・家族の負担軽減・信頼関係構築のため、受診や外出の際職員が協力するなど柔軟な対応を心がけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この1年間は、外出や面会の制限がある中で、マスクの着用、窓越し面会や外出制限などの感染症対策に、利用者とともに取り組んできた。面会や外出制限などを徐々に解除しつつも、継続して感染症対策には力を入れている。少しずつ平穏な日常を取り戻しながら、家族の協力の下で外出をしたり、室内で趣味の編み物をしたり、利用者にはメリハリのある生活を送ってもらうよう努めている。</p> <p>職員間でコミュニケーションがしっかり取れており、チームで利用者の生活を支えている。利用者とも家族のような関係性を築きながら、より良い暮らしが提供できるように取り組んでいる。刺激のある日々を送ってもらえるよう、職員が様々なアイデアを出し合って、活動を工夫している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時目につくところに運営理念を掲示し、各自確認するようにしている。	事業所の理念は事務室に掲示し、出勤時に職員が意識できるようにしている。理念に基づき、「その人らしい暮らし」をしてもらうことに力を入れている。職員会議で理念を振り返りながら、画一的な支援になっていないかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童センターの慰問・運営推進会議での町内会や地域包括との情報交換を行っている。 地域の中学校で行われている資源回収への協力を通して地域への利益の還元を図っている。	周囲に民家が少ない地域にあるため、町内との繋がりを持てるよう、中学校の資源回収に協力したりすることで、まずはホームの存在を地域に知ってもらうよう努めている。今後、町内との付き合いを積極的に行うよう取り組んでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を通して構成員と情報交換や意見交換を行い、サービス向上の参考にしていく。特に地域包括支援センターとの情報交換は地域のニーズを把握できる良い機会となっている。	対面開催を再開し、ホームの取り組みを知ってもらい、活発な意見交換の場となっている。書面開催をしていた時には、町内会長、民生委員からホーム宛に貴重な意見が書面で寄せられていた。運営推進会議は地域との大切な場にもなっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が主となっているが、質問や相談等があればメールや電話などで連絡がとれている。質問等に対しては、詳しくわかりやすい説明を受けることができている。	市の担当者には、運営推進会議の開催方法などを相談したり、手続きなどでの不明点を聞いたりしている。地域包括支援センターとは日ごろから情報交換しており、良い関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全面的に行わないことを職員・利用者家族と共有し、年2回の身体拘束等廃止についての勉強会と日頃の職員間の情報交換等で身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束をしないケアについては、常に考えている。スピーチロックや、イスの配置で行動を制限することなども身体拘束にあたることなど、勉強会でも理解を深めている。気になることがあれば職員同士で話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の虐待防止・アンガーマネジメントについての勉強会、毎月の会議での職員間の情報交換と常日頃からの職員・利用者の観察等により虐待防止・早期発見に努めている。また、適時職員と個別で面談を行い、職員のメンタルケアも行っている。	職員のストレスが虐待に繋がる可能性があることを認識し、管理者がしっかりと職員の話聞いて、悩み事などをため込むことがないようにしている。職員間の関係を良好に保つことも、虐待防止になると考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者と家族や居宅ケアマネージャーとで権利擁護についての情報交換や話し合いを行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の十分な説明を心がけ、疑問や不安なことはその場で確認・説明をしている。また、契約後の質問等もその都度対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見・要望等についての施設・法人の窓口を案内している。また、毎月ご家族と職員が直接情報交換をする機会を設け、運営に反映させるようにしている。	利用者と家族との関係にも配慮しながら、職員と家族との関係構築に努めている。家族はホームの運営にも理解があり、面会等の際に直接話をする事で、情報交換したり、悩みを聞いたりして、ホームへの意見や要望も聞いている。	家族同士の交流の場を設けるなど、ホームへの意見を気軽に出示してもらえよう取組みを期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを図り、職員が意見を出しやすい環境を作るよう心掛けている。また、意見や提案がある際は会議や連絡ノートを活用し施設内で共有・反映できるようにしている。	管理者からのトップダウンではなく、職員が主体的に運営にも関わっている。職員会議の時だけでなく、日常の業務の中でも活発な意見が出て、職員間の連携もとれているため、様々な改善提案が迅速に活かされている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事考課・管理者や職員が必要と判断した際の個人面談等を行い、働きやすくなりやすいと感じられる職場環境づくりを心がけている。	家庭の事情などを考慮してシフト調整を行い、ワークライフバランスをうまく取れるように努めている。職員同士がお互い様の気持ちで働き、良い関係ができています。何かあれば管理者が職員から話を聞き、悩みをため込まないよう努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修に加え、毎月の施設内の勉強会・不定期での資料配布等により、個々のスキルアップを図っている。法人の規定により、一部研修費の助成等をおこなっている。	職員には平等に学ぶ機会があり、同じ認識を持って利用者支援ができるように、勉強会や研修を行っている。外部研修で学んだことをホーム内で伝達研修をして、学びの共有をしている。介護福祉士試験や実務者研修受講など、職員のスキルアップへの補助をする仕組みもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームのネットワークづくりについての構想があったが実現していない。管理者は交流のある介護施設と情報交換を行い、サービス向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって生きがい・役割が持てるよう、できることは行ってもらえるようなケアを心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・居宅ケアマネージャー等より情報収集・アセスメントし、利用者の真のニーズを導き出せるよう努めている。	日常の関わりの中で、直接利用者と話することでいろいろな思いを受け止め、その思いの実現に向けて職員で共有している。編み物をしたい、夜食を食べたいという望みも、利用者にとって良い効果が得られるものであれば、取り入れるようにしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員を主として利用者の課題となるものを導き出し、本人・家族・各関係者と話し合いケアプランに反映させている。	計画作成担当者が、家族の意見を聞き、それを反映しながら介護計画を作成している。各利用者の担当職員が、利用者の意向や希望などを情報収集し、身体状況なども踏まえてより良い支援ができるよう検討している。	介護計画の評価から新たな課題を導き出すためにも、介護計画のニーズや目標について、個別性を重視し、より具体的な内容で作成することが望まれる。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用し、情報の共有・迅速な対応・プランの見直しを行っている。	日々の様子やケアについては、介護記録や申し送りノートに記録して職員間で共有している。記録の書き方は、誰が見てもわかりやすいように専門用語は使用しないように努めている。記録から汲み取った利用者の状況は、介護計画に反映している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の購入や受診など、家族が対応できない場合は家族と相談の上施設で代行している。	医療機関の外来を受診する際、必要に応じ家族に同行し、利用者の状況を説明する等、適切な情報が伝わるよう支援している。家族との情報共有を大切にし、利用者だけでなく、家族との関りに関しても柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容・配達購入などのインフォーマルサービスを活用し、コロナ禍でも安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との協力はもちろん、個別のかかりつけ医との連絡相談や受診時の付き添い・介助も随時行っている。	かかりつけ医は利用者や家族の希望に沿い、選択できるようになっているが、ホームの協力医を主治医としている人が多い。協力医から感染症対策の助言をもらい、利用者が健康的な生活が継続できるよう努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員・看護師と随時連絡を取り、早期退院にむけての情報交換・相談を行っている。	入院時には、途中経過を聞きながら医療機関と退院調整の連携をとり、可能な限りの退院支援をしている。家族とも情報を共有し、ホームに戻ってからの生活が継続できるよう努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重症化した場合や終末期についての意向の確認を行っている。状態悪化のため施設で対応しきれなくなった場合でも、利用者に不利益のないよう関係者・法人で協力して支援することとしている。	看取り介護をしていないため、契約時に重度化した場合や終末期について説明し、家族の理解を得ている。状態変化があった際には、次の施設等を家族が選定する十分な時間が取れるよう、早い段階から家族と話をするようにしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やマニュアル設置により、職員は利用者の急変時や事故発生時に適切に対応できるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、BCPの設置・周知により職員は災害時に対応できるようにしている。 運営推進会議を利用し、当施設が福祉避難所であることを発信している。	避難訓練では、実際に外に避難するなど具体的なことを想定し、職員や利用者の動きを確認し、毎回振り返りをして課題を検討している。町内会長や民生委員には、災害時には協力してもらえよう依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段より利用者一人ひとりに合った声掛けや介助を心がけている。トイレや入浴の際は、特にプライバシーに配慮したケアを心がけている。	利用者一人ひとり考え方や性格が違うことを理解し、声かけも個別性を大切にしている。プライバシーについても羞恥心に配慮し、利用者の前で特定の人との個人的な話をしないことを徹底するなど、職員間でも意識を高めるように取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため自分の想いをうまく伝えられないことが多いため、じっくり傾聴・アセスメントし真のニーズを導き出せるよう心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営に支障がなく、利用者の健康に害のない範囲で、本人のペースに合わせたスケジュールを送ってもらっている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳・簡単な調理の手伝い等を行ってもらっている。また、季節の食材を使ったメニューや行事食などを提供し、食事の時間が楽しみとなるように工夫している。	三食手作りしており、家族からの差入れの食材も取り入れている。利用者から味の感想を聞いたり、食べたいものを聞いたりして、食事が充実するよう工夫している。おやつ作りには利用者も参加し、作る楽しみも味わっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の体重測定と毎日の食事量・水分摂取の状況の記録を行い、随時食形態や食事の提供方法の見直しを行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、対象者のみ訪問歯科診療による定期的な治療・口腔ケアを行っている。 訪問歯科医より随時指導・助言をもらっている。	訪問歯科医からは歯磨き、義歯の手入れ、食形態など、利用者の状況に合わせた助言をもらい、それを日常の口腔ケアに活かしている。義歯を嫌がる利用者には根気よく向き合い、口腔内の健康保持にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた排泄介助を実施している。 介護度の高い利用者についても、介助に当たる職員の人数を確保し出来る限りトイレでの排泄を支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	施設の運営に支障がなく、利用者の生活リズムに支障のない範囲で入浴日時・回数を調整している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時に居室で休めるように案内している。 夜間良眠できるように、体操等による日中の活動量の確保・入眠前の体操や飲み物の提供を実施している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できる場所にお薬情報をファイリングしてある。 医師・薬剤師と連携し、安全に効果的に服薬できるよう努めている。	薬剤師に薬の相談にのってもらったり、アドバイスをもらい、副作用や服用の仕方等理解を深め、適切な服薬支援ができるよう努めている。誤薬防止のため、薬の容器や袋の色で判別しやすいよう工夫している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族より趣味や習慣などについて情報収集し、日々の生活に取り入れるようにしている。 本人のできることを見つけ、日々のお手伝いなどに取り入れることで施設での役割が持てるよう心がけている。	洗濯や食事の準備など、やれる範囲で関わってもらい、ホーム内での役割を持ち、メリハリのある生活を送ってもらえるよう努めている。本が好きな人には、図書館で借りてきた本を読んでもらったり、読みたい本を聞いて借りてきたりしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者や家族の個々のニーズに合わせ、施設のタイムスケジュールにとらわれないよう工夫しながら散歩など出掛けられるよう工夫している。 家族や関係者と協力し、特別な外出もできるように支援している。	天気の良い日には散歩に行ったり、利用者の希望に応じて外出を支援している。家族との外出の機会も大切にしており、違う施設に住む配偶者と面会するため、施設間で協力して支援したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設で管理しており、本人の希望に応じて家族の了解を得て、本人の必要な物・欲しい物の購入をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族へ電話をかけてもらったり、家族からの電話を取り次いだりしている。 月一回のお便りに、担当職員が利用者本人の様子や要望等を書き込んでいる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りやぬり絵などを共用部・居室内に飾っている。室温は空調管理を行い、夜間は照明を暗くするなどして生活のリズムをつけやすいようにしている。また、ひざ掛けやクッションなどを設置し心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者が過ごしやすい共有空間となるよう、空調管理や換気をしっかり行い、環境整備に努めている。利用者の行動の妨げにならないよう、家具などの配置を工夫し、動線上に転倒の原因になる物は置かず、安全にも配慮に努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席や共用のソファ設置など、利用者同士の関係性を考慮しながら配置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人のなじみのある物を持参してもらうようお願いしている。家具等の配置なども、本人・家族と相談しながら行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼紙による案内や表示・声掛け等で安全を確保しながらできるだけ自立した生活を送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100029		
法人名	医療法人 馨仁会		
事業所名	グループホーム花トピア姫		
所在地	岐阜県多治見市大針町672-2		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2191100029-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者の思いを汲み取り、支障のない範囲で個人のペースを保ちながら生活している。 ②家族との関係を断ち切らないように、文書・お便りお発送し面会を兼ねて日用品・寝具・衣料等の入れ替えを行ってもらっている。家族と電話や対面で交流する機会を持つことを心がけている。 ③地域(特に地域包括)と定期的に情報交換することで、地域のニーズに応えられるよう努めている。 ④本人・家族の負担軽減・信頼関係構築のため、受診や外出の際職員が協力するなど柔軟な対応を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	#REF! <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時目につくところに運営理念を掲示し、各自確認するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童センターの慰問・運営推進会議での町内会や地域包括との情報交換を行っている。 地域の中学校で行われている資源回収への協力を通して地域への利益の還元を図っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を通して構成員と情報交換や意見交換を行い、サービス向上の参考にしている。特に地域包括支援センターとの情報交換は地域のニーズを把握できる良い機会となっている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が主となっているが、質問や相談等があればメールや電話などで連絡がとれている。質問等に対しては、詳しくわかりやすい説明を受けることができている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全面的に行わないことを職員・利用者家族と共有し、年2回の身体拘束等廃止についての勉強会と日頃の職員間の情報交換等で身体拘束をしないケアを行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の虐待防止・アンダーマネジメントについての勉強会、毎月の会議での職員間の情報交換と常日頃からの職員・利用者の観察等により虐待防止・早期発見に努めている。また、適時職員と個別で面談を行い、職員のメンタルケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者と家族や居宅ケアマネージャーとで権利擁護についての情報交換や話し合いを行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の十分な説明を心がけ、疑問や不安なことはその場で確認・説明をしている。また、契約後の質問等もその都度対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見・要望等についての施設・法人の窓口を案内している。また、毎月ご家族と職員が直接情報交換をする機会を設け、運営に反映させるようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを図り、職員が意見を出しやすい環境を作るよう心掛けている。また、意見や提案がある際は会議や連絡ノートを活用し施設内で共有・反映できるようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事考課・管理者や職員が必要と判断した際の個人面談等を行い、働きやすくやりがいいと感じられる職場環境づくりを心掛けている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修に加え、毎月の施設内の勉強会・不定期での資料配布等により、個々のスキルアップを図っている。 法人の規定により、一部研修費の助成等をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームのネットワークづくりについての構想があったが実現していない。管理者は交流のある介護施設と情報交換を行い、サービス向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって生きがい・役割が持てるよう、できることは行ってもらえるようなケアを心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・居宅ケアマネージャー等より情報収集・アセスメントし、利用者の真のニーズを導き出せるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員を主として利用者の課題となるものを導き出し、本人・家族・各関係者と話し合いケアプランに反映させている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用し、情報の共有・迅速な対応・プランの見直しを行っている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の購入や受診など、家族が対応できない場合は家族と相談の上施設で代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容・配達購入などのインフォーマルサービスを活用し、コロナ禍でも安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との協力はもちろん、個別のかかりつけ医との連絡相談や受診時の付き添い・介助も随時行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員・看護師と随時連絡を取り、早期退院にむけての情報交換・相談を行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重症化した場合や終末期についての意向の確認を行っている。状態悪化のため施設で対応しきれなくなった場合でも、利用者に不利益のないよう関係者・法人で協力して支援することとしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やマニュアル設置により、職員は利用者の急変時や事故発生時に適切に対応できるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、BCPの設置・周知により職員は災害時に対応できるようにしている。 運営推進会議を利用し、当施設が福祉避難所であることを発信している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段より利用者一人ひとりに合った声掛けや介助を心がけている。トイレや入浴の際は、特にプライバシーに配慮したケアを心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため自分の想いをうまく伝えられないことが多いため、じっくり傾聴・アセスメントし真のニーズを導き出せるよう心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営に支障がなく、利用者の健康に害のない範囲で、本人のペースに合わせたスケジュールを送ってもらっている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳・簡単な調理の手伝い等を行ってもらっている。また、季節の食材を使ったメニューや行事食などを提供し、食事の時間が楽しみとなるように工夫している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の体重測定と毎日の食事量・水分摂取の状況の記録を行い、随時食形態や食事の提供方法の見直しを行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、対象者のみ訪問歯科診療による定期的な治療・口腔ケアを行っている。 訪問歯科医より随時指導・助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた排泄介助を実施している。 介護度の高い利用者についても、介助に当たる職員の人数を確保し出来る限りトイレでの排泄を支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	施設の運営に支障がなく、利用者の生活リズムに支障のない範囲で入浴日時・回数を調整している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時に居室で休めるように案内している。 夜間良眠できるように、体操等による日中の活動量の確保・入眠前の体操や飲み物の提供を実施している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できる場所にお薬情報をファイリングしてある。 医師・薬剤師と連携し、安全に効果的に服薬できるよう努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族より趣味や習慣などについて情報収集し、日々の生活に取り入れるようにしている。 本人のできることを見つけ、日々のお手伝いなどに取り入れることで施設での役割が持てるよう心がけている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の個々のニーズに合わせ、施設のタイムスケジュールにとらわれないよう工夫しながら散歩など出掛けられるよう工夫している。 家族や関係者と協力し、特別な外出もできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設で管理しており、本人の希望に応じて家族の了解を得て、本人の必要な物・欲しい物の購入をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族へ電話をかけてもらったり、家族からの電話を取り次いだりしている。 月一回のお便りに、担当職員が利用者本人の様子や要望等を書き込んでいる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りやぬり絵などを共用部・居室内に飾っている。室温は空調管理を行い、夜間は照明を暗くするなどして生活のリズムをつけやすいようにしている。また、ひざ掛けやクッションなどを設置し心地よく過ごせるよう配慮している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席や共用のソファ設置など、利用者同士の関係性を考慮しながら配置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人のなじみのある物を持参してもらおうようお願いしている。家具等の配置なども、本人・家族と相談しながら行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼紙による案内や表示・声掛け等で安全を確保しながらできるだけ自立した生活を送れるよう支援している。		